なり立ちと設立趣旨

財団設立30周年記念誌

30th

Commemorative magazine

なり立ち

当研究所は、籏野次郎（創立者）が小学校6年の時に関東大震災を体験し、以来再びあのような悲惨なことがあってはならないと思い続け、昭和47年、60歳の時に経営していた町工場を長男に託し、私費を投じて「避難研究所」を設立、防災の研究に没頭するようになったのが始まりです。

昭和56年4月には「財団法人 市民防災研究所」に改組し、多くの理解者と消防防災関係機関の協力のもと、市民一人ひとりが地震、火災等の災害から身を守るための研究と、市民の立場から発想した内容の防災普及活動を行っています。

創 立 者

籏 野　次 郎（1911-1997）
Jiro Hatano

東京・下谷に生まれる。
1972年、私費を投じて避難研究所を設立。
1981年、市民防災研究所に改組し、所長として運営・研究と普及に超人的な活躍をし、生涯を市民防災にささげた。

籏 野　繁（1939-1998）
Shigeru Hatano

東京・台東区に生まれる。
父と共に避難研究所を設立、市民防災研究所に改組後も副所長として父の活動を支援し、研究所の発展に貢献した。

籏野次郎は小学校6年の時に関東大震災に遭遇し、それ以来、二度とあのような悲劇を繰り返さないためにはどうしたらよいかという思いが片時も脳裏を離れず、いろいろな工夫を続けてきました。

“たったひとつしかない大切な命は守った人だけが守れる”という教訓から身のまわりにあるものを活用して、だれにでもできる防災対策を次々と考案しました。

さらにこの成果は専門家の教えを乞い、実効性を確認した上で、多くの市民に機会をとらえて普及しました。

その飽くなき探究は、86歳で世を去るまで続けられました。

息子の籏野繁は父親の寝食も忘れるぐらい真摯な研究態度と市民防災に賭ける思いに心を打たれ、常に父親の傍にいて研究や普及の手助けをしていました。

また、地震、火災といった災害が発生すれば国の内外を問わず直ちに現場に赴き、市民の目線で災害を見据え、そこから多くの教訓を学び取りました。災害現場で得た教訓は直ぐに父親の研究に生かされ、そ

の成果を二人で競って普及するという行動は、しだいに多くの消防・防災機関や研究者の支援・協力を得られるようになり、市民防災研究所の発展につながりました。亡くなった父親のかけがえのない後継者として期待された息子繁は、まるで父親の後を追うようにして、59歳でこの世を去りました。

“市民防災に生涯を賭けた二人の思いをいつまでも灯し続けて行きたい”これが残された所員一同の願いです。

昼夜問わず 研究 に没頭
普及活動 で全国各地を走り回る日々

財団法人 市民防災研究所設立の趣旨

関東地方は、近い将来大地震に襲われることが予測されております。
東京は、大正12年の関東大震災で、地震とこれに伴って発生した火災のために、大きな被害を受けましたが、現在のマンモス都市東京は、当時と比べて、一層人口が集中し、市街地は拡大し、その構造も高層化、深層化を続け、また、自動車や身のまわりの危険な物品が大巾に増えるなど、震災に対する脆弱な体質化が進行するばかりです。

籏野次郎は、小学校6年の時、下谷の仲御徒町に住んでいて震災に遭遇しましたが、それ以来、またあのような地震があったらどうなるだろう、という思いが片時も脳裡を離れず、二度と同じ悲劇を起こさないためにはどうしたらいいか、いろいろな工夫を自分なりに続けておりました。

10年程前から本格的な活動をはじめ、地震のとき荷物を持って逃げたら死の旅になる、また、大切な命と財産は守った人たちだけが守れる、という経験から得た教訓に沿って、防煙フードなど身のまわりのものを活用するユニークな火災時の避難方法や、水の特性をフルに生かした家庭内の地震対策などを次々に考案しました。それも、自分で得心するまで実験するとともに、研究者の門を叩いてその実効性を確認し、さらに、その成果の普及のため、全国の市町村や消防機関の関係団体、学校、会社などで講演を続けております。

このたび、その考え方と手法に共鳴し、都市の安全と市民防災に同じ情熱を抱いている、研究、行政、報道などの各分野の人々が相寄り、このまま放置すれば再び大きな震災被害を免れることのできない東京、そして私たちが愛してやまない東京に焦点を合わせ、そこの街と人を、近づきつつある大地震その他の災害から守る方策を、最も効果的に進めるため、財団法人市民防災研究所を設立いたしました。

この研究所は、行政機関ではやれない、あるいはやりにくい、都市住民ひとりひとりの自らの力による防災の心がまえと技術と実践について、同じ市民の立場から発想し、企画し、研究段階では各研究機関と、普及段階では各行政機関や報道機関と、それぞれ密接に連係を保ちつつ、特に東京消防庁の支援を得て、広範且つ活発な事業を行うことにより、東京都民の防災能力を高め、安全な都市生活を守ることに寄与しようとするものであります。

昭和56年3月

発起人一同

財団設立発起人 （肩書は当時、敬称略）

味岡　健二	前東京消防庁総監
大川　鶴二	元東京消防庁総監
川島　四郎	食料産業研究所所長
菊竹　清訓	菊竹清訓建築設計事務所所長
菅原　進一	東京大学工学部助教授
高山　英華	東京大学名誉教授
中田　金市	東京都火災予防審議会会長
難波　桂芳	東京大学名誉教授
籏野　次郎	避難研究所所長
村上　處直	防災都市計画研究所所長
柳田　邦男	ＮＨＫ解説委員

永続的に活動が続くようにと財団設立

初代理事長の味岡健二氏は、この活動は籏野次郎一人の道楽として一代限りでは終わってはならず、息長く続けて全国民に防災の心構えと技術を身につけてもらうべきもので、そのためには組織と基盤を確立して代がかわっても永続できるように念じたことから避難研究所から財団法人市民防災研究所に改組しました。